

会議要録

会 議 名	第1回港区幼稚園、小・中学校ネイティブティーチャー派遣事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和6年1月10日（水曜日） 午後5時00分から6時30分まで
開 催 場 所	港区立教育センター 研修室1
委 員 員	[出席者] 石鍋浩、金森強、篠原孝子、篠崎玲子 [欠席者] 吉野達雄
事 務 局	小久保篤子（幼児教育担当専門官）、三戸大輔（指導主事） 澤木俊宏、堀内遥、小林あかり（教育支援係）
会 議 次 第	1 開会 2 委員長・副委員長の選出について 3 選考委員会選考スケジュール（案）について 4 事業候補者募集要項（案）について 5 採点基準表（案）について 6 閉会
配 付 資 料	[配付資料] 資料1 港区幼稚園、小・中学校ネイティブティーチャー派遣事業候補者選考委員会設置要綱 資料2 港区幼稚園、小・中学校ネイティブティーチャー派遣事業候補者選考委員会委員名簿 資料3 選考委員会選考スケジュール（案） 資料4 港区幼稚園、小・中学校ネイティブティーチャー派遣候補者募集要項（案） 別紙1 仕様書（案） 別紙2 港区幼稚園、小・中学校ネイティブティーチャー派遣候補者選考基準（案） 【様式1】 質問書 【様式2】 参加表明書兼参加資格審査申請書 【様式3】 共同事業体構成書 【様式3-2】 共同事業体協定書兼委任状 【様式3-3】 委任状 【様式4】 事業者概要及び業務実績 【様式5】 業務従事予定者の経歴 【様式6】 業務従事予定者の配置計画及びスケジュール 【様式7】 企画提案書 【様式8】 見積書 【様式9】 プロポーザル参加辞退届 資料5 採点基準表（一次審査）（案） 資料5-2 採点基準表（二次審査）（案）

会議の結果及び主要な発言

	<p>1 開会</p>
A委員	<p>2 委員長・副委員長の選出について [委員長の選出について] 小・中学校の英語教育について造形が深く、学校教育に関するプロポーザルの委員の経験があるB委員にお願いできればと思うがいかがか。</p> <p>→ 委員長にB委員を選出</p>
委員長	<p>[副委員長の選出について] 副委員長には、行政側の委員を代表してC委員にお願いできればと思うがいかがか。</p> <p>→ 副委員長にC委員を選出</p>
事務局	<p>3 選考委員会選考スケジュール（案）について (資料3の説明)</p> <p>→意見なしで了承</p>
事務局	<p>4 事業候補者募集要項（案）について 5 採点基準表（案）について ※4及び5を関連する項目として一括で審議 (資料4から資料5-2までの説明)</p>
D委員	<p>事業者は1年契約なのか。</p>
事務局	<p>1年間の契約になる。区のプロポーザルのガイドラインにより、選出した事業者は計5年間までは請け負うことができる。</p>
D委員	<p>これまでもネイティブティーチャーを派遣しているが、みえてきた課題はあるか。</p>
事務局	<p>T1である担任とT2であるネイティブティーチャーとの連携をより一層深めていくことである。長年の課題でもあるが、教員との打合せの時間を確保したり、教員の意向を理解して進められるネイティブティーチャーを配置したりすることが課題である。</p>
B委員	<p>T1とは、小学校の場合、学級担任で良いか。</p>
事務局	<p>ご認識のとおりである。</p>
D委員	<p>中学校の場合のT1は誰に当たるのか。</p>
事務局	<p>中学校の場合、T1は英語科の教員である。英語科国際の授業ではネイテ</p>

	<p>イブティーチャーが主体で英会話を進めるが、その際も事前に英語科の教員との打合せに基づき進めていく。</p>
B委員	<p>英語の授業と、区独自に英語科国際の授業があるとのことだが、違いについて説明してほしい。</p>
事務局	<p>区では週4回学習指導要領に定められた英語科の授業に加えて、週1回英語のコミュニケーションを重視した英語科国際を展開し、計週5回で英語に関係する授業を行っている。英語科国際ではネイティブティーチャーが中心に発話をして授業を行っている。</p>
D委員	<p>区で定める年齢ごとの学習の成果の目標があれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>国際科、英語科国際の指導指針を定めており、どの学年でどの内容を取り扱うかということを取り決めている。指導指針で取り決めた力が身についたかどうか学習の成果のひとつの判断材料になる。</p>
D委員	<p>指導指針はプロポーザルの判定をする際に必要か。</p>
事務局	<p>直接プロポーザルに関係はないが、背景として指導指針があるということを理解いただいていた方が良いと思う。</p>
D委員	<p>事業者も指導指針は認識しているか。</p>
事務局	<p>公募をする際に仕様書と公募要項を作成し、区の状況を理解した上で提案されているかについては、委員に見ていただきたい。</p>
D委員	<p>幼児教育の英語のコミュニケーションについて、区としてどんな資質・能力が育つと良いと考えているか。</p>
事務局	<p>小・中学校の英語のコミュニケーションにつながるという意味で幼児期から言葉に触れることを大事にしたいが、それとともに多様な人々との触れ合いや海外の人と関わることで日本の文化を改めて知っていくということも狙いである。</p>
A委員	<p>事業者のノウハウもあると思うので、事業者から提案をしていただき、カリキュラムに取り入れられることを聞いていきたい。</p>
E委員	<p>二次審査の採点基準表の提案の発展性について、どのようなことを言えば発展性になるのか。</p>
事務局	<p>仕様書に基づいて事業者から提案してもらおうが、より質の高いネイティブティーチャーを派遣するために仕様書の基本的事項を実施しつつ事業者としてどんな工夫をするか、どのくらい膨らませて提案ができるかという観点から発展性を評価してほしい。</p>
E委員	<p>つまり、仕様書に記載されていること以外でも柔軟性を持って対応できる姿勢をみるのか。</p>

事務局	ご認識のとおりである。
E委員	理解・回答力について、委員が専門的すぎる質問をすると事業者が答えられないため複雑な質問をしてはいけないと思うがいかがか。
事務局	質問によって事業者はどのようなことができるのか等を見ることが趣旨である。なお、難しい質問についてはあえて共通質問を設けるなど、選考委員会の中で検討するのがよい。
E委員	見積額は絶対評価か相対評価か。これは選考委員が採点するのか。
事務局	見積額の評価は事務局が行うが、絶対評価で採点する。
B委員	仕様書の就業日数について幼稚園が週3日程度とあるが、程度ということは超えても問題ないか。
事務局	行事等によって振り替えることもあることから、固定ではなく、幼稚園・学校の実態に応じて柔軟に配置できるように程度と記載している。仕様書別紙2に各幼稚園、小・中学校の派遣予定合計日数を記載しており、幼稚園は其中で週3日程度とし、実際は調整することが可能である。
B委員	スケジュールについて学校行事等によって時間割が変わることがあるがそれを事業者が理解しているかを問うことは可能か。
事務局	可能である。
B委員	人材派遣契約のため、学校は直接指導ができると捉えて良いか。
事務局	業務委託契約ではなく、人材派遣契約のため責任者・指揮命令権者も幼稚園長、学校長になる。
B委員	教育委員会等との連携体制について、連携は非常に重要だと考える。指導体制が指導内容に繋がってくるため、評価係数は×4が良いと思う。ただし満点が200点にならないため調整が必要になるか。
事務局	評価係数は委員の審議によって変更が可能である。一次審査と二次審査の配点比率が区のガイドラインでおおよそ2対1となっており、評価係数を×4にしても問題ないと思う。
D委員	先ほど課題を伺った際に連携が課題であるということを考えると重視したほうが良い。
A委員	連携がないといくら質の高いネイティブティーチャーが派遣されても良い授業ができないと思うため、評価係数は×4が良いと思う。
E委員	ネイティブティーチャーは、学校にいる時間はほとんど授業に入ってしまった。先生たちが相談する時間がないため、就業時間に加えて連携が

	とれる時間がある方が良いと思う。
B委員	打合せの時間があると良いとのことだが、6時間の派遣時間は全て授業になるのか。
事務局	ネイティブティーチャーは、全ての時間、授業に入るとは限らないため、空き時間も確保できると考えている。
B委員	つまり打合せ時間も生じてくるという理解で良いか。
事務局	ご認識のとおりである。
E委員	ただし、実際の現場では質問したい教員が授業に入ってしまう、質問や相談ができなくなるので、難しいと思う。もちろん評価係数を×4にするのは良いと思うが、別枠で打合せの時間が確保できると良いと思う。
B委員	それについてはプレゼンテーションで質問しながら柔軟に対応できるのか、発展的に対応できるのかを判断していくということで良いか。
D委員	研修体制は6時間のなかでの研修になるのか。別の機会にどこかで研修を受けるのか。研修の際、区の要望をどう反映することができるのか。
事務局	授業が終わったあとに、事業者が別会場に集めて研修を実施している。授業について研修をしたり、児童・生徒とのコミュニケーションの研修をしたりする。事業者の担当者と事務局が連携して、学校からの要望や直近の課題を伝えることができるので、ミーティング等を通じて随時ネイティブティーチャーには指導している。
D委員	指導したことについての研修効果の評価はどのようにするか。
事務局	研修内容の報告や、要望したことについてどのように指導したか、問題が生じた際にどのように指導したかを報告いただいている。
B委員	現在の事業者は業務委託か。現在と同じ研修体制が期待できるとの認識でよいか。
事務局	現在は人材派遣契約となっている。同じ研修体制が期待できると認識している。
D委員	幼稚園の就業日数の週3日程度についてはどのように考えたらよいか。
事務局	各学年、各学級の一斉活動の時間と一斉活動以外の好きな遊びのなかでネイティブティーチャーが関わる時間を組み込む予定である。
D委員	小学校のように指導計画があるわけではないため、継続した指導ができない気がするがいかがか。
事務局	週に1回だと定着や興味・関心が薄れてしまうため、できるだけ繰り返し

	触れられるように週3日としている。発達段階に応じて週3日を柔軟に活用することを想定している。指導指針のようなものは区として考えるが、事業者のノウハウについてはプロポーザルのときにきいていただきたい。
E委員	企画提案書の評価の研修体制について、研修内容についても確認できるのか。
A委員	授業内容について研修していることが多いが、様式7に具体的に記載してもらおう等の修正をし、提案できたらよいと思う。
事務局	修正する。
委員長	[一次審査の通過事業者数について] 一次審査の通過事業者数について、3者程度でよいか。 → 意見なしで了承
委員長	[二次審査について] 1者あたり、プレゼンテーション15分、質疑応答15分でよいか。
A委員	たくさん聞くことが多ければ、質疑応答を長くするのが良いと思うがいかがか。
B委員	個人的には少し伸ばした方が良いと思う。
D委員	同感である。
E委員	二次審査でききたいのは発展性であり、それを言ってもらえるかどうかである。15分間のプレゼンテーションとなると、もっと時間が必要だと思うが、ポイントを絞って話してもらおうのか。
事務局	各事業者任せでポイントを絞ると説明が偏り審査が公平にできなくなる可能性があるため、プレゼンテーションの実施前に企画提案書を網羅的に説明するよう案内している。
E委員	15分間でいろいろな話をされても評価できるかわからないため、ポイントごとに答えをもらった方が評価する上では分かりやすいと思うがいかがか。
事務局	ポイントに関しては共通質問事項として各事業者を確認することを質問する方がよいと思う。
D委員	基本理念や配置計画、スケジュールは提案書の書面をみればわかる。実施体制や研修体制についてのプレゼンテーションをしてもらったほうが良いと思う。
B委員	これまでの経験では網羅的に話しても事業者の意向が反映されるので強弱がでてくる。強弱がでてくるとそれぞれの事業者の特徴がみえてくるた

	め、事務局の進め方で行い、質疑応答でバランスがとればよいと思う。
A委員	提案書を踏まえてプレゼンテーションをするため、発表の仕方が会社の考え方や対応につながると思う。基本は提案書に沿って、それを踏まえて気になる点について質問した方がいいと思う。
委員長	では、今の方向でよろしいか。 → 了承
委員長	先程議論した質疑応答の時間について、やはり時間を延ばした方が良く思うがいかがか。 → 了承
事務局	それでは、プレゼンテーションを15分、質疑応答を20分に設定する。
委員長	[評価項目について] 評価項目の配点について 教育委員会事務局・幼稚園、小・中学校との連携体制についての評価係数を×4にするでよいか。 → 了承
事務局	それでは、評価係数を×4に修正する。
E委員	国際理解教育という言葉を使用しているが、国際教育、異文化コミュニケーション能力のすべてを含めて国際理解教育か。英語活動は言語活動に変えた方がいいと思うがいかがか。
事務局	幼稚園の英語活動は、言語に特化して活動していくことではなく、幼稚園ネイティブティーチャーが英語を使うことから、英語を使うネイティブティーチャーとの活動という意味を含めている。
E委員	英語活動は中学生の英語活動を連想するため気になった。
事務局	言葉については誤解のないように修正する。
委員長	中学生は学習指導要領上、外国語活動としていることから、検討してもらうことをお願いしたい。国際理解教育についてはいかがか。
事務局	区では英語のコミュニケーション能力を高める国際科、英語科国際の授業のほかに、区の施策として異国の地に行って異文化を理解すること等を含めているため、英語教育だけでなく国際理解教育としている。
B委員	国際理解教育について異文化理解を含むとのことだが、言葉の定義について明確にさせていただくことをお願いしたい。
	6 閉会

